

あすのば全国集会2024
「あすのば6千人調査」からの声 ～教育・経験～



① 経済的な理由で進学を断念

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「高校は所得に対して授業料の免除があるけれど、私立の場合は一度立て替えて学校に先に支払わなければならない、授業料が戻ってくるのは年度末なので、1年間の学費を先払いしなければならないのでとてもしんどい。」

「コロナ禍で収入が減った中で娘たちの進学にかかる費用が増えて、貯金を使いながらなんとかやってきたが本当に厳しい状況が続いている。あと1年半頑張れば長女と次女が卒業になるので、そこを目指して努力するしかない。」

「子どもの教育に差が出るのは耐えられない！お金がないと十分に教育を受けさせられないと感じる事が多い」

① 経済的な理由で進学を断念

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「田舎には子ども食堂や無料の塾(支援)なんてありません。NPO法人？都市部にしかありません。田舎は置き去りにされてますが？都市部の子供達が支援を受けてるからって、田舎の子供達が同じ支援を受けてると思わないで下さい。」

「子供たちを塾に通わせたくても費用が無い事や、進路の選択肢が入学費用や学費が高い為、狭まってしまった事。子供たちに我慢ばかりさせてしまっていて申し訳ない事が辛いです。」

① 経済的な理由で進学を断念

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「子供は高1で、大学進学を望んでいる様ですが、経済的に厳しく、思う様にしてやれそうになく、子供の希望を叶えてあげる為にも、無償で受けられる奨学金制度を増やして欲しい。」

「再来年中学生に上がる息子の制服を買ってあげられるか今から心配です。そのために貯金をしようと思ってもできてない現状です。」

① 経済的な理由で進学を断念

【「あすのぼ6千人調査」の声を踏まえて】

- ・ 大学の授業料無償化を、貧困・ひとり親家庭へと拡大する。
- ・ 学校への通学費用(定期代など)の補助制度を整える。
- ・ 放課後無償学習支援制度を充実させる。(都市部だけではなく、全国へ)
- ・ オンラインでも学習できる教材を、支援を求める家庭に無償提供する。
- ・ 給付型奨学金の拡充を行う。
- ・ 受験料の助成制度を全国の自治体に広げる。

②進学・進路に関する情報格差

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「たくさんのサービスがあるが、調べたり申し出ないと受けられないものばかり。」

「高校の進路指導とか情報の質が低くて、必要な情報を得られなかった。」

「学費等で必要とするお金が、手続きなどで時間がかかり、即効性が無く、今も、国が低所得者に給付金が入るなどと言っているが、いつ入るか等の詳しい内容がわからない。」

「働いていると、支援の情報を探す時間が限られている。」

「学費補助や奨学金の情報が不足していて、届かない。」

②進学・進路に関する情報格差

【「あすのぼ6千人調査」の声を踏まえて】

- ・ 給付金や助成制度の情報を、より広く周知する。
- ・ 支援情報を一元化して、全ての家庭がアクセスできる仕組みを整える。
- ・ 忙しくても簡単に知ることができるオンラインプラットフォームを整備する。
- ・ 身近で信頼できる支援者から、確実に情報を伝えられるようにする。

③学校行事など経験の格差

【「あすのば6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「今年高校の修学旅行で、友達と同じ額のお小遣いを持たせたいけど、なかなか高くて困っている。」

「今年になってコロナ・コロナ後遺症で休職期間が長く、支援がなく家計は非常に苦しい。そんな苦しい中、子供の修学旅行費用・卒業準備金(小学生)やスキー教室費用(中学生)の出費でさらに苦しくなっている。」

「子どもが高校生の時修学旅行が海外だった為パスポートやスーツケースの準備から含めて高額だったので役場へ相談に行ったら、『修学旅行は行かなくても良いんですよ。行くの辞めたら良いじゃ無いですか』と言われ絶望的な気持ちになった。」

③ 学校行事など経験の格差

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「行きたい学校があるけど私立だしやりたい部活は遠征があって高そう。」

「部活を続けたいが、たくさんお金がかかるから不安。習い事もしたい。」

「学校や生活費の支払いで母が大変そうで見ると申し訳なくなる。学校にかかるお金(部活費含めて)もう少し支援があれば母が助かると思う。」

「部活動や学校行事で必要な物の購入や活動費を支援の範囲内で賄うのは難しい為、必要な物に対してもう少し支援して貰えると助かります。」

③学校行事など経験の格差

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「部活の送迎、生活保護を受けている為、車がないので試合には、出ない。公共の交通機関では、朝早い集合時間に間に合わない」

「生活で精一杯で子供の習い事を我慢させてしまったのが辛かったです。物価高で子供の行きたい所に連れて行ってあげられなかったりするので1人親世帯の給付金をもっと増やしてほしいです」

③学校行事など経験の格差

【「あすのぼ6千人調査」の声を踏まえて】

- ・ 修学旅行など積立金に対する助成制度を整備する。
- ・ 部活動やクラブ活動、習い事に対する充実した助成制度を拡充する。
- ・ 直接かかる旅費や部費だけではなく、費用全体を考慮した制度をつくる。

④家庭内での教育について

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「お金を出しても親が受け取ってしまい意味がない。親がお金があってもなくても親にお金の使い道の決定権があるので、子どもに行き渡らない。それならそもそも模試や副読本、受験費用や交通費ホテル代を直接子どもに給付してほしい。」

「奨学金を借りるのに保護者の所得が必要なので、自分だけじゃ借りれないから、保護者との関係が悪くなると、大学を辞めなければいけないのかと不安になる。」

「お母さんが家にいないことが多く、ヤングケアラーの類だと思います。勉強ができない。」

⇒親や家庭の協力が必要不可欠になってしまっている

④家庭内での教育について

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「進学にあたり、大学選びを一緒に考えてくれる人がほしい。よくわからないから。学校は本人任せで頼りにならない。肩書きだけ。」

「両親が専門学校卒業で大学進学について相談できる身近な人がいない。」

⇒進路に関して身近に相談できる人がいない

④家庭内での教育について

【「あすのぼ6千人調査」からの声】※子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「生活保護で、就職も進学も不安でしかない。世帯分離をして、一人で生きていける気がしない。」

「高校卒業後に大学へ進学する場合、生活保護を受給していた世帯の子どもは世帯分離しなければならなかったこと。手続きが複雑で多くの時間を要したこと。また、家庭の状況は変わらないのに払わなければならないお金が増えて大変に感じた。」

⇒生活保護受給世帯は、進学時に世帯分離が必要である。

世帯分離って何？

原則として大学等に進学すると、生活保護世帯の対象からはずれ、自分の分の生活保護費が支給されなくなります。これを「世帯分離」といいます。家族は引き続き生活保護を受けられます。

世帯分離するとどうなる？

家族と一緒に住みながら大学等に進学できますが、住宅費以外の自分の生活費や学費は、奨学金やアルバイト等で用意する必要があります。また、国民健康保険に加入する必要があります。



世帯分離前後の生活保護費の変化の例

※江戸川区ホームページより

④家庭内での教育について

【「あすのば6千人調査」の声を踏まえて】

〈親や家庭の協力が必要不可欠になってしまっている〉

- ・ 用途を定めた教育費支援制度を整備する。
- ・ 立替払いではなく、直接自治体が学校等に納入する制度づくりを行う。
- ・ 勉強ができる環境を提供する。(自習室の設置を行う)

〈進路に関して身近に相談できる人がいない〉

- ・ 学校での進路相談を更に充実させる。
- ・ オンライン進路相談で全国の子どもたちができるようにする。

〈生活保護受給世帯は、進学時に世帯分離が必要である〉

- ・ 生活保護を受けながら大学に通うことを認める制度設計を行う。

あすのば全国集会2024
「あすのば6千人調査」からの声 ～居場所～



①こどもの虐待やいじめに対してのシグナルを先生が感知できていない・学校に配置される専門職(例:SSW)のなり手がいない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「母がシングルマザーで精神障害者となり自殺しようとしたこともあり辛い日がたくさんありました。妹のごはん作りや洗濯などの家事もしました。高校時代は友達のトラブルに巻き込まれメンタルが落ち、学校にいけなくなり、親に送ってもらったり2年生までの単位は取れて、母が学資保険をかけてくれたので、市立の通信高校に行くことが出来て高校は卒業できました。行きたい専門学校もあったけどお金がないのがわかってたので我慢しました。ご飯も一日2食か1食のときもありました。今はアルバイトをしています。18から成人扱いとなりお金には困っています。」

「先生が無視したりした学校いかない」

「学校に行ってもべんきょうがわからなくて、休んでもおこられるばかりでいやになった。勉強をおしえてくれる場所に行きたい」

【課題】こどもの虐待やいじめに対してのシグナルを先生が感知できていない・学校に配置される専門職(例:SSW)のなり手がいない

○教職員の**負担軽減**

- 部活動を担当する人は教員ではなく、定年退職した人や地域住民、大学生等が有償ボランティアとして担当する

○教員免許の取得過程で**福祉的な視点**を学ぶ

- 子どもの近くにいる教職員が児童虐待やいじめ、特別支援教育について学ぶ機会を増やす

○SSWの賃金向上に加えて職業的地位を高める

- 教員と同様に、**SSWも公職化**する
- 職業的地位を高めるために、他教職員との関わり方や学校内での立ち位置について**制度的に明記**する
- **SSW同士の交流**を増やす

②身体的・精神的持病のある人達が能力を発揮できる労働環境 (アルバイト・パート)が整備されていない

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「うちは親が離婚して、今は母と暮らしている。僕を含め兄弟みんな発達障害を持っているため、今までも母には色々負担をかけていると思う。それでも僕たちの事を一番に考えてくれている。たまに欲しい物が買えなかったりで母に文句を言ったりもする。あとになってごめんって思うけど、母が毎日頭を悩ませてやりくりしてるのも知ってるので、母をもう少し楽にさせてあげるためにも、国の上の人達だけではなく下位層の子ども達の意見をもっと聞いて欲しいと思う。」

「(父親が職場で亡くなったのだが、労災が認められなかったことを受けて)お母さんはヘルニアが悪いのに仕事を探しに行きますが、採用となると身元保証人が用意できません。身元保証人代行業は危険で使えません。助けてください。色々凄まじすぎて息が苦しくなります。人間全てが嫌いになりました。」

【課題】身体的・精神的持病のある人達が能力を発揮できる労働環境(アルバイト・パート)が整備されていない

現状

障害者差別解消法: 障害を理由とする差別の全面的な禁止

解決策

- 就労継続支援以外にもニーズに応じた**フォーマルな働き口**をつくる・増やす
- 企業内で障害を持つ人が**自分の持っている強みを発揮できる働き方**を模索する
 - (例) ADHDの強み(あくまでも例。個人差は大きい)
 - 洞察力、創造的思考力、問題解決力が高いなど
- グループホーム・就労継続支援A型B型・デイ併設を増やす
 - 就労支援の場と生活支援の場を一致させることで、支援の連携を図る

③お金がかからずに子どもが楽しむことができる居場所が少ない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「交通費がない。友人や、学校行事で集まる場所への移動など。歩いてかえる時もあった。」

「中学生のとき、無料学習塾に通っていたが、ボランティアの人が教えているので、正直、普通の塾とは全然違った。」

「私は両親が離婚して母子家庭で育ちました。母親は仕事で忙しく、中々会話をする時間が無かったうえ、精神的に不安定な部分があり、家が安心できる場所ではなかったと感じていました。」

「親の仕事がコロナでなくなった時から未だに家計は苦しそうなので、自分の浪人生活が負担にならないように参考書も買わずに図書館や家で受験勉強をしています。ですが、なかなか自由に勉強できる場所がないのでこれから先、自分のような人のためにももっとフリースペースを増やしていただきたいです。」

【課題】お金がかからずに子どもが楽しむことができる居場所が少ない

○居場所それぞれに**定義**をつけて多様な子ども・若者たちが利用しやすい居場所を増やす

- それぞれの居場所に”利用できる年齢”や”主な活動内容”などを定義づける
- 居場所に**繋がりがづらい層**(高校中退・卒業後の青年)や**潜在化しやすいニーズ**(性的マイノリティ等)を抱える子どもを対象とした居場所支援

○居場所支援の地域格差をなくし**アクセス性を向上**させる

- 保護者や子どもが居場所支援情報につながる環境づくり
- 居場所をもつきっかけとしての**アウトリーチ**を行う

○子どもが置かれている**状況に応じた居場所**の整備

- 大人が守ってくれる場としての居場所とお金を掛けずに自由に遊べる場としての居場所の区別をする

④ひとり親の雇用環境改善(特に非正規雇用)及び、仕事と育児の両立支援について

「私に苦勞をかけないように自分を犠牲にする父を見てつらい。自分のご飯を食べなくても私にはちゃんと用意してくれるのを見たくない。」

「離婚後、お金もそうだけど、父親がいなくなったのが寂しい。母親が朝から晩まで働いていて(母親と)話す時間も減った。大学へ進学したいが、今の状況で進学したいとはいえない。」

「母はいつも疲れていて、私たちに満足な生活をさせようと頑張ってくれているけど、給料が上がらず苦しいと言っています。」

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

提案する解決策

○雇用環境の改善

- 正規雇用の**働き方**（早退保障制度、フレックスタイム制等）を拡充する
- 非正規雇用の**賃金を向上**させる
- 非正規雇用においても育児休暇などの**福利厚生制度を充実**させる

○預かり先の充実

- 安い料金で子どもを預けることができる託児所を都内だけでなく全国に普及させる
- 当日でも預かり先が見つかるように、誰もが預かり先のなりてになれるような支援や制度をつくる

⑤親子関係を仲介する存在が必要、親への教育ではなく負担軽減に力を入れるべき

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「発達の過程で、本来両親から学習することを学ぶ時間がすくなかったため、他の家庭の子どもとのコミュニケーションが難しかったと記憶しています。」

「奨学金を借りるのに保護者の承認が必要なので、自分だけじゃ借りられない。なので保護者との関係が悪くなると、大学を辞めなければいけないのかと不安になる。」

「祖母たちは宗教団体に入っています。母だけ脱退したことにより、親が祖母たちに捨てられてしまいました。母は宗教のせいで辛い思いをして精神障害を患ってしまいました。精神障がいがあっても、僕には優しい母です。頑張り屋で働きすぎて、過去に何度も過労で緊急搬送されました。いい大学に進学し、たくさん勉強をして、給料の良い会社に就職し、早く母に楽をさせてあげたいです。」

【課題】親子関係を仲介する存在が必要、親への教育ではなく負担軽減に力を入れるべき

現状

相談支援の限界 訪問支援の対象の限界

解決策

○悩みを相談できる場づくり

・親が子育てについて相談、子どもが親との関わり方を家庭から離れて相談できる場。

○訪問支援の拡大

・訪問支援の機会と対象を増やす。

⑥子どもたちが自身のキャリアを考える時間や場がない

「あすのば6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「来年3年生になり大学への進学を希望しているが、家計が不安定なので進学できるか心配。両親が専門学校卒業で大学進学について相談できる身近な人がいない。」

「理解してくれる人が母しかいない。友達もいない。」

「親を見てると大人は大変としか思えない。」

「今、進路の事で色々悩んでます 何処の高校へ行くか分からないです」

【課題】子どもたちが自身のキャリアを考える時間や場がない

- 人生の中で多様な経験をしてきた人の話を聞き相談できる機会を増やす
 - 現在の親世代、シルバー世代、5～6歳上の人などに**就職や結婚**などの良い点・大変な点を聞くことができる機会をつくる
 - 学校の授業**カリキュラムの一環**として結婚や子育て、就職について現実的な課題やメリットを学び考える時間を設けるべき
- 高齢者施設と学童**の併設を進める
 - 高齢者の認知症予防に加え、歴史の継承を行うために高齢者と児童が日常的に触れ合うことができる環境を整備すべき

⑦相談支援の質や量が十分ではない

「あすのぼ6000人調査」の自由記述より ※保護者・子どもの自由記述から(一部誤字等修正)

「当時居住していたのが地方の田舎町だったのも災いし、人との交流が希薄になっていたと感じています。金銭的な負担がないオンライン上での相談やカウンセリング等がより身近になれば今困っている子どもたちを救う一助になるのではないかと考えます。」

【課題】相談支援の質や量が十分ではない

○相談窓口の一元化

- ・自身が置かれている状況に合わせて**民間の支援団体や公的支援に繋がってくれる**窓口が必要
- ・得られる支援情報を一元化したサイトは存在するが、それらのサイトにアクセスするには決まったキーワードを入れて検索する必要がある
- ・**労力の分散にならない**よう申請でき、**得られる支援を的確に教えてくれる**窓口が必要

○地方では相談窓口や支援制度の少なさが課題となっている

- ・**オンライン支援**の質、量の向上が必要
- ・繋がりをを持った**支援員が各地域に分散**している状態を目指す

参考文献

- ・ 文部科学省が教員の負担軽減といじめの改善を目的に既存の施策

https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2019/04/25/1412993_25_1.pdf

- ・ [教員勤務実態調査（令和4年度）【速報値】について（概要）（mext.go.jp）](https://www.mext.go.jp)

- ・ [令和3年度産業経済研究委託費 - イノベーション創出加速のためのデジタル分野における「ニューロダイバーシティ」の取組可能性に関する調査](#)

- ・ 重度の知的障がいを抱えた息子のため豆腐店を創業 <https://bunshun.jp/articles/-/56495>

- ・ 居場所の現状と課題、及び提言

https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_ibasho_iinkai/dai4/siryou2-3.pdf